

第45回 全国ミニバスケットボール大会

神奈川男子代表・六ッ川ミニバスケットボールクラブ 戦評

☆予選リーグ 大阪戦

<1Q>両チームともマンツーマンでスタート。お互いミスが続き、苦しい立ち上がりとなった。試合開始2分後、神奈川#8がハイポストからの1on1でゴール下シュートを決め、やっと得点が動き始めた。大阪はエース#7の力強いドライブからのシュートで流れを引き寄せ、#10のロングシュート、#4のドライブ、#7のゴール下シュートと点を重ねた。神奈川は、#8のゴール下シュート、#4のミドルシュートで食らいついていく。6-8、大阪リードで1Q終了。

<2Q>#12のロングシュートで良いスタートを切った大阪。1-3-1のゾーンでボールにプレッシャーをかけ、積極的にダブルチームを仕掛けた。ミスが続く神奈川がタイムアウト。(残り3:14)お互い台形をなかなか攻めきれず、ミドルシュートとロングシュートで点を取り合った。17-20、大阪リードで2Q終了。

<3Q>開始1分、#10がドライブシュートを決めてからプレスを仕掛けた神奈川。神奈川#8が大阪#7からチャージングを取り、流れを引き寄せた。大阪は1-3-1ゾーンを攻めきれず、苦しい展開が続く。神奈川はセンター#8、#10がリバウンド、ゴール下シュートを頑張り、点を重ねた。31-24、神奈川が逆転し、3Qを終えた。

<4Q>神奈川1-3-1のゾーン、大阪マンツーマンでスタート。#7がマークされ苦しい中、果敢に攻め続けた大阪#5。ロングシュート、ゴール下シュート、ファールを誘ってのフリースローとシュートを決め続けた。ディフェンスでもプレスをかけ、積極的にボールを狙い、残り1:09で4点差まで詰め寄った。しかし、神奈川は慌てることなくボールを回し、41-36で勝利をつかんだ。

☆予選リーグ 愛知戦

<1Q> 両チームともマンツーマン。#6中心に攻める愛知。対する神奈川は、#4のミドルシュート、#6のロングシュート、#8のゴール下シュートとバランスよく点を重ねた。10-6、神奈川リード。

<2Q> #5のミドルシュート、#9、#10のゴール下シュートで出だしからペースを掴んだ神奈川。愛知のオールコートマンツーマンをドリブルで突破し、台形を攻め続けた。愛知は外からのシュートが多くなったが、#7が速攻でのレイアップシュート、ゴール下シュートを決めた。30-13、神奈川が点差を広げ、前半終了。

<3・4Q> お互いに後半もマンツーマン。愛知は1Q同様、#6を中心とした攻めと、速攻を狙ったプレーを見せた。神奈川は、#8、#10のセンターがゴール下で確実に点を重ね、58-30。神奈川が決勝トーナメント進出を決めた。

☆準決勝 広島戦

<1Q> 両チームともマンツーマン。#5がゴール下シュートを2本決め、良いスタートを切った広島。一方、神奈川はミスが続き、シュートが決まらない。開始2分、神奈川#4がカットイン、スティールからのドリブルシュート、バスカンを決め逆転。広島は#5センターが集中してマークされ、台形を攻めきれないが、#4がスティールからの速攻、外角シュートを決めた。神奈川は#8、#9が積極的に台形を攻め、シュートを決めた。11-8、神奈川リードで1Q終了。

<2Q> リバウンドを確実に取り続けた神奈川がリズムを掴んだ6分間となった。外からのシュートが多くなった広島に対し、神奈川は#10のリバウンドシュート、#5、#13のミドルシュートで点差を広げた。22-10。

<3Q> 広島#6、神奈川#5のロングシュートから始まった3Q。両チームともにマンツーマン。お互いミスが続き、3分間無得点が続いた。流れを作ったのは、神奈川#10のリバウンドタップシュート。その後、#8のゴール下、#5のレイアップ、#6のミドルと得点を重ねた。広島は#4が積極的に攻めてチャンスを作るが、点差を縮めることができず、32-16、神奈川リードで3Q終了。

<4Q> オールコートマンツーマンでプレッシャーをかける広島。3Qの流れを払拭するようなスピード感あふれる広島#4のプレーで、点差を縮めた。しかし、神奈川は#4のドライブ、#5、#6のロングシュート、#10のゴール下シュートで、再度点差を広めた。広島のタイムアウト(残り3:20)後、ディフェンスのプレッシャーにミスが続く神奈川。#4のロングシュート、#17のミドルシュートが決まり、流れは広島へ。勢いに乗る広島を止めたのは神奈川#8。広島#5、#18のゴール下シュートを連続でブロックした。広島#4、#5が果敢に攻め続け、粘りのあるプレーを見せたが、45-32で神奈川の勝利となった。

☆決勝 石川戦

<1Q> 両チームともハーフコートマンツーマン。石川#5が神奈川#8を台形でしっかり抑え、神奈川の得点は#4のロングシュートのみとなった。一方で、神奈川#6が石川のエース#5をフェイスガードで守り、得意のドライブを封じた。石川#7、#8がロングシュートを決め、7-9、石川リードで1Q終了。

<2Q> 神奈川はマンツーマン、石川は2-2-1のゾーンプレスと2-1-2のゾーン。神奈川#10が飛び込みリバウンドからのシュートを2本決め、流れは神奈川へ。石川の得点が止まり、苦しい展開が続く。神奈川#10が3本目のシュートを決めたところで石川タイムアウト。(残り2:14)その後、石川#11がゴール下でバスカン、#6がミドルシュートを決め、15-14。神奈川リードで2Q終了。

<3Q> お互いゾーンプレスとゾーンでプレッシャーをかけ合った。神奈川#10のミドルシュートで3Qスタート。#4のロングシュート、#8のミドルシュートで流れは神奈川へ。石川は#5がロングシュート、ドリブルシュートを決めた後、ゾーンプレスでプレッシャーをかけるが、神奈川は冷静にボールを運び、#8、#10の長身を生かしたゴール下プレーで点を重ねる。34-21で神奈川が点差を広げた。

<4Q> 石川#16が神奈川#4をフェイスガードで激しくマーク。#7のロングシュート、#16のゴール下とロングシュートで一気に石川ムードとなった。しかし、神奈川は石川のゾーンプレスを落ち着いて運び、#5のミドルシュート、#4のロングシュート、#8のリバウンドシュートと持ち味のシュートを決めた。石川のタイムアウト(残り2:27)後、石川#5がゴール下シュート、ミドル、ドライブ、ロングシュートと、怒涛の追い上げを見せたが、神奈川が最後まで冷静なプレーで逃げ切り、44-39で優勝を決めた。